

令和元年度 第1回 埼玉県生涯学習審議会 会議録

1 日 時 令和元年11月26日(火) 15:00～16:30

2 会 場 埼玉会館 会議室6C

3 出席した委員 (17人)

生駒章子委員、猪股敏裕委員、井深道子委員、大矢美香委員、
小川直己委員、柿沼トミ子委員、風間重文委員、加藤聡司委員、坂口緑委員、
高澤守委員、寺山昌文委員、長坂道子委員、西村平雪委員、芳賀洋子委員、
又野亜希子委員、松澤正委員、和田明広委員

4 欠席した委員 (3人)

青山鉄兵委員、有田るみ子委員、田辺直也委員

5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 関口睦 部長

6 委員の紹介

7 会長及び副会長の選任

会長は坂口緑委員、副会長は松澤正委員が選任された。

8 議事の経過

(1) 会長の開会宣言

(2) 会議の公開・非公開

会長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。
傍聴者1名

(3) 会議録署名委員の指名

会長から大矢委員と小川委員が指名された。

(4) 議題及び経過

ア 議題

- (1) 埼玉県生涯学習推進指針について
- (2) 平成30年度埼玉県生涯学習指針に関する取組状況調査の結果について
- (3) 「学び直し」について

イ 経過

	埼玉県生涯学習推進指針について
事務局	説明
	埼玉県生涯学習推進指針に基づく取組状況及び学び直しについて
事務局	説明
会長	国がリカレント教育に重点を置いているのは、時代の背景が関係している。例えば、生産年齢人口の減少や、非正規職員の問題がある。また、今回の埼玉県生涯学習指針に基づく調査結果から、起業についての項目が手薄となっている。
委員	医療ケアが必要な人が社会参画するためには、ボランティアの力が必要である。一方で、看護師や医療経験のある人などがリタイアした後の活躍の場も必要である。仕事は嫌だが、ボランティアは良いという人がいる。医療ケアが必要な方が社会参画するためにボランティアの方に協力してもらうととても良い。病院ボランティア等の希望者は多い。
委員	埼玉県生涯学習推進指針に基づく取組状況の調査の対象で高齢者は何歳からか。図書の修理の研修を行ったあとはどうしているか。追跡調査が必要である。追跡調査は行っているか。
事務局	市町村により、高齢者の年齢はそれぞれであり、高齢者は何歳からというのは特に決めていない。また、追跡調査については、研修受講後に多くの方がボランティア等で活躍していると聞いている。
委員	学び直しの定義は県として決めているのか。学びが悪かったから学び直しなのか。新たな学びも学び直しの調査に入っているが。資料を見ると、実践しながら学ぶというのが学び直しなのだと思うが。

- 事務局 課内でも議論したが、国としても定義がないため、解答が見つからない。定義としてはまだ曖昧なままである。集約はしていきたい。
- 会長 確かに、今までのことをすべてやり直すという意味ではない。リンダグラッドさんの講演会では、「今までやっていたことをやめた、それを再開することもが学び直しという。」と言っていた。定義すると、定義にカチッと入らない講座も出てきてしまう。「誰に、何を」ということが大切である。
- 委員 止まって学び直すのではなく、一歩進みながら学ぶ。「やり直す」ではないということは伝えるべきある。実践しながら学び直すことが大切だと思う。
- 委員 昔は学校教育で一生涯もったが、人生100年時代と言われる現在はそれではもたない。自分のスキルを磨くということも社会教育では大切である。
- 委員 「これだ。」と迷いなく一直線に進んでいる人は少ない。あれをやれば良かった、あれをやりたい、反省の社会である。今の社会でやるべきことは何か考える。自分自身の学び直しと捉えたい。
- 委員 議論から外れてしまうかもしれないが、本もインターネットで予約できる。公共の図書館として進化し、時代に対応していくことも必要である。従来のやり方にとらわれず進化していくことが大切であり、人生100年時代に必要である。
- 委員 青少年教育の立場からも、指導者が学んで変わらないといけない。リーダーづくりをするにも学ぶ機会が必要である。時代についていくためにも変化していかないといけない。
- 会長 調査結果から女性向けが多い印象がある。働く女性が地域に溶け込むようなシステムづくりが大切である。
- 委員 家庭教育が基本で、幼少期の家庭教育も大切である。いまでも行っているが家庭教育アドバイザーの養成や外国人をサポートするような

事業も進めてほしい。

委員 埼玉県生涯学習推進指針に基づく取組状況の調査結果を見ても、多文化共生の講座が少ない。

会長 講座の内容まで提言することは難しいが、学び直しの方向性をつくれたらよい。

委員 まだ自分は現役で、退職後に学び直しを継続できるパワーがあるか心配である。自分はマンション住民だが、住民との接点がない。地域や町内会の中に学びのきっかけづくりがあると嬉しいし、参加しやすい。

委員 今まで経験してきたこと、働いて得たことをどう生かすかが学び直しだと思う。介護は与えるという価値観であったが、新しい価値観づくりが必要である。うっかりすると「障害者は受け身」というステレオタイプが増えてしまう。

委員 県では高齢者大学を実施している。学生は一芸を持っており、お茶の先生や着付けの先生など、お互いがいつでも先生であり生徒である対等な関係がある。これが社会教育という視点で広がっていくと良い。

会長 学び直しは、やり直すのではなく、次の活動を生むこと、そしてその瞬間をつくるのがこれから重要である。つまり、学習した成果を生かし、それが次の学びを生む。このことが大切である。

会長 次回の会議の進め方については、事務局と検討させていただく。それでは、本日の議事は以上で終了する。

